

平成27年度 第6回 府中市文化財保護審議会議事録

日 時 平成28年3月22日（火）午後3時30分

場 所 ふるさと府中歴史館3階市史編さん資料室

出席者 田中会長、坂詰委員、副島委員、中村委員、馬場委員、福嶋委員、八木橋委員 以上7名

事務局 後藤部長、英主幹、黒澤課長補佐、和田郷土資料担当主査、荻野事務職員

傍聴者 なし

1 報告事項

会長 それでは報告事項（1）から、事務局の説明求めます。

報告事項（1） 平成27年度の文化財保存・活用事業結果及び平成28年度の文化財保存・活用計画について

事務局 資料1の「2 市史編さん事業」についてご説明いたします。平成27年度は、主に専門部会の開催、専門部会による調査・研究、市史編さん審議会の開催、大学との連携による調査等を進めてまいりました。

本年度は6部会の専門部会が多い所で6回、少ない所で3回開催させていただきまして、市史編さんの調査、調査成果のとりまとめ等を審議してまいりました。来年度も各専門部会の開催と調査・研究を引き続き調整してまいりまして、各専門部会間の意見調整の場としての編集委員会を設けまして、部会の目標を達成していきたいと考えております。

市史編さん審議会の開催は、年度当初4回計画しておりましたが、事務局の事情もあり、3回開催させていただきました。最終回となる3回目は今週末に開催される予定です。

主に市史編さんの方向性と各専門部会の活動についてこちらの会議でご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

来年度も引き続き、3回開催させていただきたいと考えております。

大学との連携による調査は、それぞれ専門部会と大学との連携で、調査を進めております。平成27年度は、表に記載しておりませんが、自然部会で帝京大学との連携による調査をいたしました。平成28年度は、東京農工大学、東京外国語大学と自然分野・近世史分野・近現代史分野で連携事業を進めてまいります。

市史編さんは、平成35年度までの事業として進めておりました、平成30年頃までを主に調査を進め、以降は資料集の刊行、報告書の刊行をしたうえで、通史編を刊行していくというスケジュールで進めてまいりたいと考えております。

ということで、平成28年も調査を中心とした活動を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、「1 国史跡・武蔵国府跡（国司館地区）保存整備事業」につきましては基本設計のまとめが終わりまして、（その内容の）公開しました。実施設計が今年度終了し、来年度以降に第1期工事を着手します。第2期工事は民間活力の導入調査をして、平成29年度以降にその設計をする予定です。

「3 文化財管理・整備事業」につきましては、国史跡 武蔵国府跡（国衙地区）は、後ほど現地をご確認いただく予定です。土系舗装は直しましたが、柱はまだ現地に設置されておられません、今年度中に終了予定になっております。

「4 国史跡 武蔵府中熊野神社古墳保存整備事業」につきましては、国衙地区と同じく土系舗装の部分が傷みましましたので、その改修をしているところですので、こちらも後ほど現地を確認していただきます。平成28年度には、西側の公有地化したところの公園化の基本設計を進めていく予定です。

「5 国天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護管理事業」につきましては、今年度、1月から3月に掛けて危険木診断調査を実施し、前回の文化財保護審議会では、並木東側の緊急枯損枝除去の件についてご説明させていただきましたが、西側の調査結果が未だ上がってきておりませんので、今後その結果が出次第、来年度以降管理課と協議しながら、危険木を伐採していく予定で考えております。

「6 ふるさと府中歴史館の管理・運営」につきましては、（平成27年度は）5月にくらやみ祭展、7・8月に夏休み発掘展、11月以降2月終わりまでは、発掘お宝展を催し、現在「大震災と府中」展を催して来年度に向けて進めていく予定です。来年度は今年度とほぼ同じ日程で、くらやみ祭展、夏休み発掘展、発掘お宝展を開催する予定です。

「7 文書館としての公文書の収集・保管・活用事業」につきましては、選別文書の調査、文書廃棄依頼、廃棄文書選別を繰り返し行ってきておりますが、来年度も継続して実施していく予定です。

「8 指定文化財の維持管理」につきましては、今年度は特にこれということは実施しておりません。ただし、白糸台掩体壕の本体部分に亀裂等々が見受けられるようになってきておりますので、雨漏りが多少ありますので、防水処

理をしていきたいと考えております。

「9 新指定案件の検討 新指定手続き」と「10 埋蔵文化財発掘調査体制の見直し」につきましては、継続して実施しておりますが、委員にお示しできるような物は今のところございません。

「11 川崎平衛門没後250年記念事業」につきましては、平成27年にイベントとしてウォーキングと演劇を実施しました。平成28年度も同じイベントを実施し、平成29年5月に本祭を開催する予定です。

「13 郷土の森は靴武官の管理・連携」につきましては、今年度、指定管理者の更新を実施しておりまして、来年度以降は府中文化振興財団と、プラネタリウムの管理者として五藤光学研究所に参加していただくことになりました。

また、プラネタリウムの更新を順次進めていきたいということで、今年度は基本的な考え方をとりまとめ、来年度は工事を行っていく予定です。

博物館の施設改修につきましては、開館後28・29年経っておりますので、空調の改修工事、防災受電板改修工事、旧河内家屋根葺替工事を今年度実施しました。来年度は同じ空調の改修工事、中央監視装置改修と、本管の雨水管からの雨漏りが発生しておりますので、雨水管の漏水調査を予定しております。

「14 公開・活用事業」につきましては、遺跡調査会40周年記念ということで、田中先生・坂詰先生に来ていただきまして2月終わりに無事開催させていただきました。来年度はそういう公開事業は今のところ計画しておりません。

以上です。

会長 この課の事業は14までで全部含まれているのですね。

事務局 はい、そうです。

会長 大学との連携・協働は何をやるのですかね。

事務局 はい、1つは専門部会の事業自体が大学との協働という形で進めさせていただいています。専門部会の先生方は大学の先生方に委員になっていただきまして、調査・研究に当たっていただいている訳なのです。その中で特に掘り下げて調査すべき部分につきましては大学と連携して進めるとしておりまして、例えば本年度の物ですと、自然部会でそういったものがありまして、市内の全小学校に温度計と湿度計を据えまして、10分間毎に（データロガーで）

記録を採るという気象調査を行ったりしております。来年度も自然部会では福嶋先生にお世話になりまして、東京農工大学と連携を進めた形での調査・研究を進めていきたいと考えております。その有り様についてはは、未だ検討いただいている状態です。

また、東京外国語大学との関係で、1つは近世の古文書調査に取り組んでおりまして、東京外国語大学の先生方と大学院生等の協力もいただきまして、市内の旧家の古文書を解読し、資料としてまとめていく作業に今年度から取り掛かっております。それも来年度引き続き行っていきたいと考えております。また、近代史の関係で、公文書が重要性を増してまいりますので、東京外国語大学の公文書館にお願いしてまいりたいと考えております。

こういった事業が、市と大学の協働事業として登録しているところですので、更にこれを推進して市史に有意義な形でデータをいただいで取りまとめていきたいと考えております。

福嶋委員 連携事業というのは、聞こえは非常に良いのですが、くれぐれもお願いしておきたいのは、片利共生にならないように、つまり片方だけ得して、もう片方は損する形にならないようにしていただきたいのです。今後、十分に市と大学で協議をお願いします。

会長 こちらで求めている事を応えてもらえないのではないかという感じがします。たとえば、府中市の自然史について幅広く興味を持っている先生が仮に農工大にいらっしゃれば良いのですが、いかがですか。

福嶋委員 それは大丈夫だと思います。

会長 福嶋先生は別でしょうけれど、学者というのは専門分野が狭いから、(市史に) 関して詳しく色々な情報をもらっても、こちらが求める物とは違うかもしれないことは有り得ますよね。

福嶋委員 それは注意いたしますけれど、少なくとも先生方はしっかりしていますので大丈夫だと思います。

といいますのも、ここの調査会のメンバーの先生との関係がベースになっていますので、何を府中市が求めて、何しようとしているのかは、それぞれの委員の先生方は分かっています。

会長 先生方の為にはなっても、府中市の為にならなければ意味がないなとい

う感じがしてしまう。

福島委員 それは、そうですね。田中先生、それも含めて一緒にやりましょう。

福島委員 片利共生ではなくて、(相利) 共生でやりましょうということです。両方とも良いという。

坂詰委員 連携の意味をきちんとしておかないといけないですね。

福島委員 そうですね。ありがとうございます。

会長 この議題は、これでよろしいですね。報告事項の(2)から(4)はここで説明してから現地へ行くのですか。

事務局 いいえ、現地で直接ご説明いたします。

会長 それでは、議題は以上ですね。それでは、これから現地視察に向かいます。

次回は平成28年度第1回文化財保護審議会です。日程は5月中旬を予定し、期日が近づいたら、詳細な日程を調整することに決まりました。